

UHF Synthesized Transmitter

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

WRT-822

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4～6ページの注意事項をよくお読みください。製品全般および設置の注意事項が記されています。
8ページの「本機の性能を保持するために(使用上のご注意)」もあわせてお読みください。

定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご相談ください。

故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご連絡ください。

本機は、電波法第4条、電波法施行規則第6条により、技術基準適合証明を受けてあります。技術基準適合証明ラベルをはがしたり、本機の内部を改造して使用したりすることは、電波法で禁じられています。

使用時に外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じことがあります。このような場合は、電波の発射を停止する(電源を切る)か、あるいは周波数の変更(チャンネルの切り換え)を行ってください。

目次

| | | | |
|------------------------------|-----------|--------------------|-----|
| △ 注意 | 5 | 保証書とアフターサービス | 裏表紙 |
| 電池についての安全上のご注意 | 6 | | |
| 特長 | 7 | | |
| 本機の性能を維持するために | 8 | | |
| 各部の名称と働き | 8 | | |
| 電源 | 10 | | |
| 接続 | 12 | | |
| マイクロホンシステムのご注意 | 12 | | |
| 設定 | 13 | | |
| 設定モードにする | 13 | | |
| 送信チャンネルを選択する | 13 | | |
| アップテナーレベルを調整する | 15 | | |
| 使用時間の表示を0:00に戻す | 15 | | |
| エラーメッセージ | 16 | | |
| 故障かな？と思ったら | 17 | | |
| 主な仕様 | 19 | | |

警告表示の意味

この取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、大けがなど人身事故につながることがあります。



この表示の注意事項を守らないと、事故によりけがをすることがあります。

注意を促す記号



注意



破裂



高温

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止

⚠ 注意

下記の注意を守らないと、けがにつながることがあります。



分解禁止

分解しない、改造しない

分解したり、改造したりすると、けがの原因となります。内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。



禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると、乾電池がショートしてけがの原因となることがあります。

万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

電池についての安全上のご注意

ここでは、本機での使用が可能な乾電池についての注意事項を記載しています。

万一、異常が起きたら

- ・煙が出たら
①機器の電源スイッチを切るか、電池を抜く。
②ソニーのサービス窓口に連絡する。
- ・電池の液が目に入ったら
すぐきれいな水で洗い、直ちに医師の治療を受ける。
- ・電池の液が皮膚や衣服に着いたら
すぐきれいな水で洗い流す。
- ・バッテリー収納部内で液が漏れたら
よくふきとつから、新しい電池を入れる。



警告



破裂



高温

下記の注意事項を守らないと、破裂・液漏れにより、死亡や大けがなどの人身事故になることがあります。

- ・乾電池は充電しない。
- ・火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- ・指定された種類の電池を使用する。



注意



破裂

下記の注意事項を守らないと、破裂・液漏れにより、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

- ・使用推奨期限内(乾電池に記載)の乾電池を使用する。
- ・ \oplus と \ominus の向きを正しく入れる。
- ・電池を入れたまま長期間放置しない。

特長

WRT-822は、806 ~ 810MHz帯を使用した特定小電力無線局(B型)に対応したUHFシンセサイザートランシッターです。ソニーUHFシンセサイザーチューナーと組み合わせて使用します。

PLLシンセサイザー方式

簡単なボタン操作で、B型30チャンネルの切り換えが可能です。

小型、軽量のボディ

高精密度のマウント技術とマグネシウム合金のケースによって、トランシッターを小型、軽量化しました。ホール、ホテル、結婚式場、大会議場などで、携帯に便利です。

本機のバッテリー状態を受信機で表示

バッテリーアラーム機能付きのソニーUHFシンセサイザーチューナーと組み合わせて使用している場合は、本機の電池がなくなる約1時間前にチューナーのLEDが警告表示をするので、電池交換を確実に行うことができます。

単3電池で動作

内蔵のDC-DCコンバーターにより、単3アルカリ電池2本で、連続約8時間の安定した動作を行うことができます。

液晶ディスプレイによる多彩な情報表示

内蔵CPUで制御している本機の動作状態は、送信チャンネル、周波数、アッテネーターレベル、電池残量の情報を表示します。また、電池使用積算時間を分単位で表示することができます。

チャンネル、アッテネーターレベルの設定の保存

設定した送信チャンネルやアッテネーターレベルは、電源を切るとそのデータが保存されます。電池を取り出しても、データは保持されるので、次に使用するとき、設定し直す必要はありません。

アッテネーターレベル調整

0 ~ 21 dB(3 dB刻み)で調整可能な入力レベルアッテネーターを内蔵しています。過大入力で音声信号が歪むことを避けられます。

ラベリアシリーズのマイクロホンに適合

付属ラベリアマイクロホンの他に、ソニーのラベリアマイクロホンシリーズ(ECM-77BC その他)に適合します。

トーン信号回路を内蔵

チューナー側の受信待機時のノイズを防ぐトーンスケルチ回路をコントロールするトーン信号回路が内蔵されています。

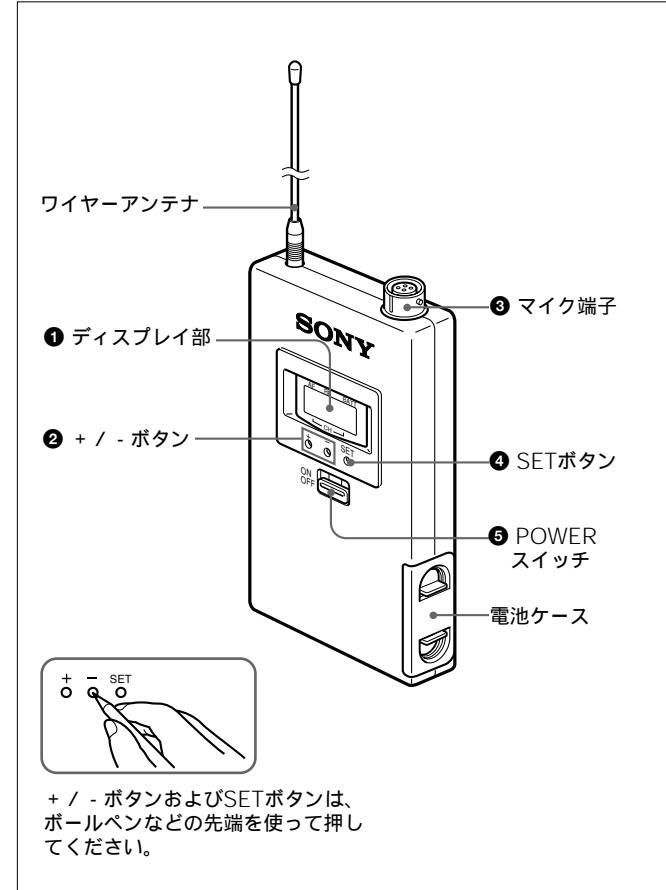
コンパンダー伝送方式

無線伝送系の外来雑音に強く、広域エリアでの運用が可能です。

本機の性能を維持するために

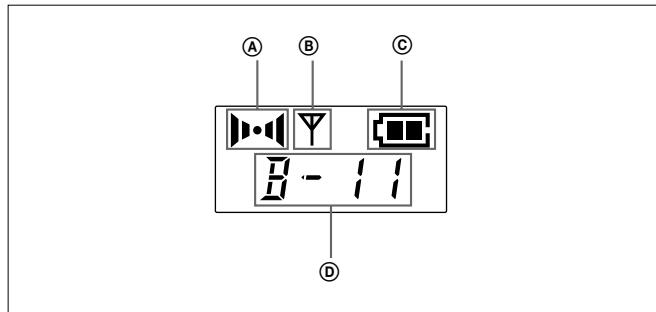
- 本機の許容動作温度は0 ~ 50 です。ただし、常時高温となる場所や、直射日光のある場所では、表面が変色したり、不具合が生じることがありますのでご注意ください。また、ライトやパワーアンプなどの発熱体の上や近くには置かないでください。
- 水分やほこりの多い所、活性ガスにさらされる所で使用したあとは、早めに端子部や本機表面のお手入れを行ってください。お手入れを怠ったり、このような場所で長時間使用したりすると、機器の寿命を縮める恐れがありますので、ご注意ください。
- 表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布でふきとてください。シンナーやベンジンなどの薬品類は、表面の仕上げをいためますので使わないでください。

各部の名称と働き



① ディスプレイ部

設定されているチャンネルおよび各種の情報を表示します。



Ⓐ AF(音声入力レベル)表示

基準レベル以上の音声信号が入力すると、表示が現れます。

Ⓑ RF(高周波出力)表示

信号がアンテナから送信されると表示が現れます。

Ⓒ BATT(バッテリー残量)表示

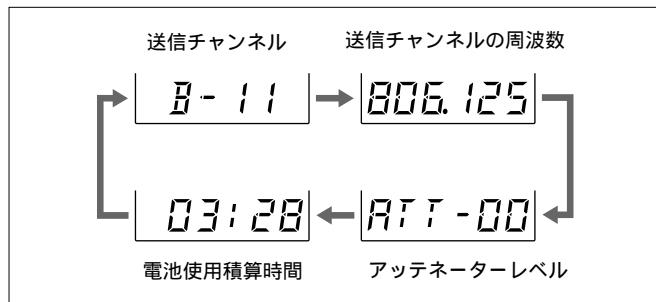
本機の乾電池の残量を表示します。

◆詳しくは「乾電池の表示」(11ページ)をご覧ください。

Ⓓ CH(チャンネル)表示

送信チャンネルを表示します。

表示は、送信モードではSETボタンを押すたびに、チャンネル表示、周波数、アッテネーターレベル、電池使用時間の表示に切り替わります。



アッテネーターレベル：入力減衰量を表示します。表示単位はdBです。

設定モードで、0 ~ 21dBまで調整することができます。

電池使用積算時間：電池の使用時間を「時間：分」で表示します。

◆詳しくは「送信チャンネルを選択する」(13ページ)、「アッテネーターレベルを調整する」(15ページ)、「使用時間の表示を0:00に戻す」(15ページ)をご覧ください。

② + / - (設定値の増 / 減および使用時間表示のリセット)ボタン

チャンネル番号、周波数およびアッテネーターレベルを設定するとき、+または-ボタンを押して、ディスプレイ部に希望の値を表示させます。

電池の使用時間を表示している場合は、-ボタンを押すと、表示が「0:00」に戻ります。

◆詳しくは「設定」(13ページ)をご覧ください。

各部の名称と働き

③ マイク端子

付属のマイクロホンおよびECM-77BCなどソニーのラベリアマイクロホンの出力端子を接続します。また、別売りのマイクロホンケーブルEC-1.5CFを使用して、他のマイクロホンを接続することができます。

◆詳しくは「接続」(12ページ)をご覧ください。

④ SETボタン

送信モードでは、このボタンを押すと、ディスプレイ部に表示される内容が前ページのように切り替わります。

設定モードでは、設定する項目を変更し、設定することができます。本機を設定モードにするには、このボタンを押しながら、POWERスイッチをONにします。

◆詳しくは「設定」(13ページ)をご覧ください。

⑤ POWERスイッチ

本機の電源をON/OFFします。

SETボタンは触れずに、このスイッチをONにすると、送信モードになり、設定されているチャンネルの信号を送信します。

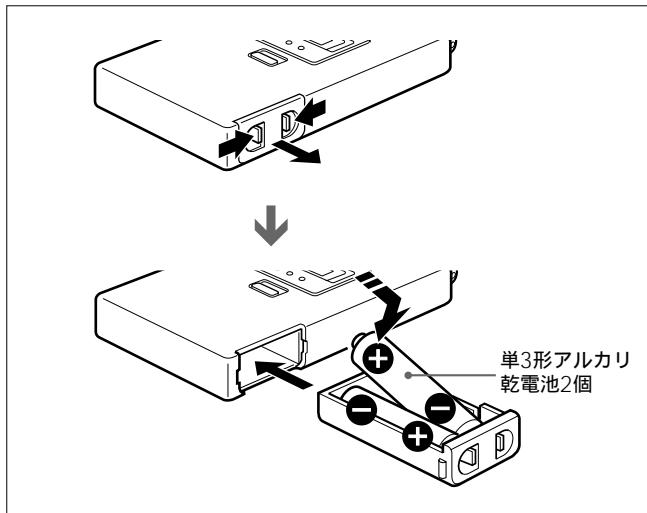
SETボタンを押しながら、このスイッチをONにすると、設定モードになります。設定モードでは送信されません。

ご注意

電源をONにする前にマイクロホンを接続してください。

電源

本機は単3形アルカリ乾電池2本で連続約8時間動作します(動作温度25℃時)



乾電池を入れるには

- 1 図のように、電池ケースのつまみ2個を中心に寄せる。
電池ケースを取り出すことができます。
- 2 電池の+/-を確認して、新しい電池を入れる。
- 3 元通りに電池ケースを本体に納める。

乾電池の表示

POWERスイッチをONにすると、ディスプレイ部に本機の乾電池の残量が表示されます。

| | 1 | 2 | 3 | 4 |
|------------|---|---|---|-------|
| BATT 表示 | 点灯  | 点灯  | 点滅  | 消灯 |
| 乾電池の 残量 | 良好です です | 半量以下 です | 消耗して ます | ありません |

上の表の3の表示が点滅し始めたら(消耗)直ちに乾電池を2個とも新しいものと交換してください。新しい乾電池は、記載されている使用推奨期限を確認のうえ使用してください。

また、本機の電池が消耗すると、バッテリーアラーム機能付きのソニーUHFシンセサイザーチューナーではインジケーターが点滅します。

◆バッテリーアラーム機能について詳しくは、チューナーの取扱説明書をご覧ください。



警告



注意

乾電池についてのご注意

乾電池の使い方を誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。

- \oplus と \ominus の向きを正しく入れてください。
- 電池を交換するときには、必ず2個とも新しい乾電池と交換してください。
- 新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は充電できません。
- 本機を長時間使わないときは、乾電池を取り出しておいてください。万一、液漏れが起こったときは、電池ケースや本体についた液をよくふき取ってから、新しい乾電池を入れてください。または、ソニーのサービス窓口にお持ちください。

ご注意

交換した乾電池が新しくない場合は、乾電池の残量が正しく表示されない場合があります。長時間続けてお使いになるときは、新しい乾電池と交換することをおすすめいたします。

接続

ご注意

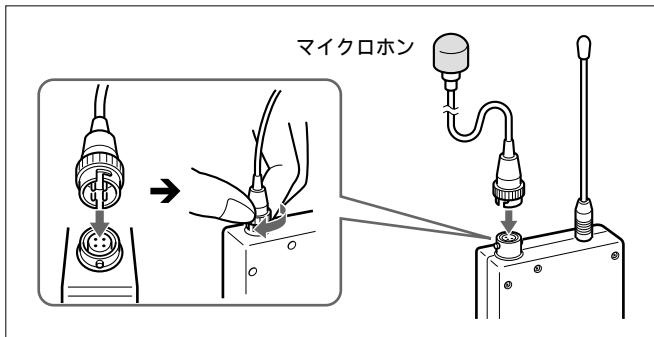
マイクロホンを接続する前に本機の電源を切っておいてください。

マイクロホンを接続する

マイク端子に付属のラベリアマイクロホン、またはソニーのラベリアマイクロホンシリーズ(ECM-77BCなど)を接続します。

また、別売りのマイクロホンケーブルEC-1.5CFを使用して、その他のマイクロホンを接続することができます。

接続を確実にするために、ケーブルの端子カバーをかならず締めてください。



◆アッテネーター・レベルを調整する方法については「アッテネーター・レベルを調整する」(15ページ)をご覧ください。

マイクロホンシステムのご注意

複数のチャンネルを同時に使用する場合は、次の事項に注意してください。

- 同一グループに属するチャンネルは、最大7チャンネル(B型のみ)または11チャンネル(A型/B型混在)まで、同一エリア内で同時に使用できます。ただし、送信機と送信機の間の距離を30cm以上、送信機と受信機の間の距離を3m以上離してください。
- 同系統グループ内の異なるグループを同時に使用する場合は、グループ間の距離を30m以上離してください。
- 2つ以上のシステムで同一グループを使用する場合は、仕切りや障害物がなく見通せる広い空間では、システム間の距離を100m以上離してください。

◆チャンネルプラン(グループ)については、チューナーの取扱説明書をご覧ください。

設定

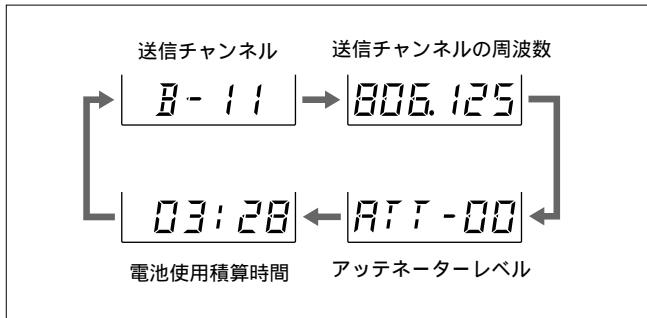
設定モードにする

設定モードでは、ディスプレイ部のCH表示に送信チャンネル、周波数、アッテネーターレベルを表示させて、希望の値を設定することができます。

また、電池の使用時間の表示を「00:00」に戻すことができます。

本機を設定モードにするには

- 1 SETボタンを押しながら、POWERスイッチをONにする。
本機の電源を切る前に選択されていた項目が、ディスプレイ部のCH表示で点滅します。
- 2 SETボタンを押して、設定する項目を表示させる。
ボタンを押すたびに、項目は下記のように変わります。



送信チャンネルを選択する

送信チャンネルと周波数

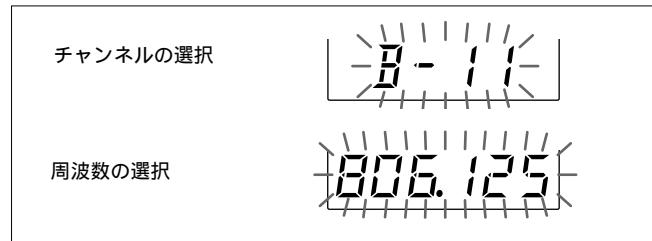
| 送信 チャンネル | 周波数 (MHz) | 送信 チャンネル | 周波数 (MHz) |
|-------------|--------------|-------------|--------------|
| B-11 | 806.125 | B-41 | 806.750 |
| B-12 | 806.375 | B-42 | 807.500 |
| B-13 | 807.125 | B-43 | 808.000 |
| B-14 | 807.750 | B-44 | 809.125 |
| B-15 | 809.000 | B-45 | 809.375 |
| B-16 | 809.500 | B-46 | 809.750 |
| B-21 | 806.250 | B-51 | 807.625 |
| B-22 | 806.500 | B-52 | 808.125 |
| B-23 | 807.000 | B-53 | 808.375 |
| B-24 | 807.875 | B-54 | 808.750 |
| B-25 | 808.500 | B-55 | 809.625 |
| B-26 | 808.875 | | |
| B-31 | 806.625 | B-61 | 807.250 |
| B-32 | 806.875 | | |
| B-33 | 807.375 | | |
| B-34 | 808.250 | | |
| B-35 | 808.625 | | |
| B-36 | 809.250 | | |

設定

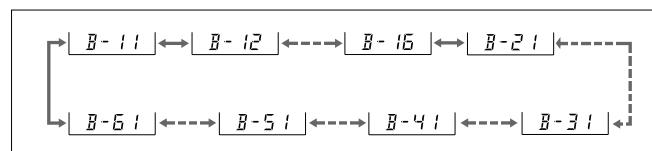
WRT-822は、B型帯域30チャンネルのうち、任意に選択した1チャンネルを送信します。本機の送信チャンネルをチューナーの受信チャンネルと同じチャンネルに設定してご使用ください。

- 1 本機を設定モードにして、ディスプレイ部でチャンネル表示が点滅していることを確認する。

周波数を選択する場合は、SETボタンをもう一度押すと、周波数表示が点滅します。



- 2 + または - ボタンを押して、希望のチャンネルを表示させる。
+ ボタンをくり返し押すと、グループ表示は下図の右向き矢印の順に変わります。 - ボタンを押すと、逆の順に変わります。
ボタンを押し続けると数値は連続して変わります。



- 3 希望のチャンネルが表示されたら、POWERスイッチをOFFにする。
(設定モードを解除しない場合は、SETボタンを押す。)

POWERスイッチをOFFになると、設定モードが解除され、設定したチャンネルが記憶されます。次に電源を入れたとき、そのチャンネルで使用できます。

ご注意

- チャンネルを設定して電源を切る前に乾電池を抜いた場合は、設定を初めからやり直してください。
- 設定中に電源を切った場合は、直後に電源を入れると、正しく動作しないことがあります。数秒経ってから、電源を入れてください。
- 同一のシステム内のチューナーと送信機は同じチャンネルに設定します。
- 外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが出るとあります。このような場合は、システムの使用チャンネルを設定するときに、送信機の電源をOFFにしたままチューナーのRFインジケーターが点灯しないチャンネル（雑音や妨害電波の影響をうけていないチャンネル）を選んでお使いください。
- TV局の近くでは、そのTVの周波数は使用しないでください。

アッテネーターレベルを調整する

設定モード、送信モード、いずれの場合も、アッテネーターレベルを調整することができます。調整範囲は0 ~ 21 dB、3 dB 刻みです。

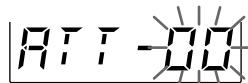
設定モードでアッテネーターレベルを調整する

1 本機を設定モードにする。

◆ 設定モードについて詳しくは13ページをご覧ください。

2 ディスプレイ部にアッテネーターレベルが点滅するまで、SETボタンをくり返し押す。

アッテネーターレベル



3 +または -ボタンを押して、希望の数値を表示させる。 ボタンを押し続けると数値は連続して変わります。

4 希望の数値が表示されたら、POWERスイッチをOFFにする(設定モードを解除しない場合は、SETボタンを押す)

POWERスイッチをOFFになると、設定モードが解除され、設定したアッテネーターレベルが記憶されます。次に電源を入れたとき、その値で使用できます。

送信モードでアッテネーターレベルを調整する

1 ディスプレイ部にアッテネーターレベルが表示されるまで、SETボタンをくり返し押す。

2 +または -ボタンを押して、希望の数値を表示させる。

使用時間の表示を00:00に戻す

使用時間の表示は、本機の電源が入っている時間の合計を時間と分で表示します。

乾電池を交換したときに表示を「00:00」に戻しておくと、乾電池の積算使用時間がわかります。

1 本機を設定モードにする。

◆ 設定モードについて詳しくは13ページをご覧ください。

2 電池使用時間が点滅表示されるまで、くり返しSETボタンを押す。

電池の積算使用時間



3 - ボタンを押す。

表示は「00:00」にもどります。

「00:00」が点滅している間に+ボタンを押すと、手順2で表示していた値に戻ります。

4 POWERスイッチをOFFにして、設定モードを解除する。

エラーメッセージ

本機の動作に不具合が生じた場合は、ディスプレイ部に次のようなメッセージが表示されます。

| メッセージ | 内容 | 対応 |
|----------|---------------------------|---|
| ERROR 11 | バックアップメモリーデータにエラーが発生しました。 | データが初期化されるため、送信チャンネルとアッテネーターレベルを再度設定してください。 |
| ERROR 21 | PLLシンセサイザー回路に異常があります。 | ソニーのサービス窓口にお持ちください。 |
| ERROR 31 | 乾電池の電圧が規定レベルを越えています。 | 指定の乾電池を使用してください。 |
| ERROR 41 | 内部の回路に異常があります。 | |
| ERROR 51 | A/Dコンバーターに異常があります。 | ソニーのサービス窓口にお持ちください。 |
| ERROR 61 | 内部の回路に異常があります。 | |

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

| 症状 | 原因 | 対策 |
|--------------------|---|---|
| 電源が入らない。 | ・電池の+、-が逆になっている。 ・電池が消耗している。 ・電池端子が汚れている。 | 正しい方向に入れ直してください。 新しい電池に交換してください。 +端子、-端子を綿棒でクリーニングしてください。 |
| | ・電池が消耗している。 ・マンガン電池を使用している。 | 新しい電池に交換してください。 マンガン乾電池の持続時間はアルカリ乾電池に比較して半分以下になりますので、アルカリ乾電池を使用してください。 |
| | ・寒い環境で使用している。 | 低温時は、電池寿命が短くなります。 |
| チャンネルの変更 ができない。 | ・設定モードになっていない。 | SETボタンを押しながら、POWERボタンをONにして、ディスプレイ部のCH表示を点滅させてから、+ / - ボタンで変更してください。 チャンネルを変更したら、POWERスイッチを一度OFFにし、またONにして、CH表示を点灯させてください。 |
| 音が出ない。 | ・本機とチューナーのチャンネルが違っている。 ・チューナーのRFインジケーターが点灯しない。 | 本機とチューナーのチャンネルを合わせてください。 本機の電源を確認してください。 |
| | ・本機のアッテネーターレベルの設定値が大きい。 ・アンプ、ミキサーのボリュームが下がっている。 | 出力レベルが小さくなっています。本機のアッテネーターレベルを適正値に設定してください。 ボリュームを上げて適正音量にしてください。 |
| 音が歪む。 | ・本機のアッテネーターレベルの設定値が小さい。 または0である。 ・本機とチューナーのチャンネルが違っている。 | 音量が過大入力です。音が歪まないように本機のアッテネーターレベルを設定してください。 本機とチューナーのチャンネルを合わせてください。 |

| 症状 | 原因 | 対策 |
|---------------|--|--|
| 音切れ、ノイズが発生する。 | <ul style="list-style-type: none"> • 本機の電源を切っても、チューナーのRFインジケーターが点灯している。 | <p>妨害電波が出ています。 まず、チューナーをRFインジケーターが点灯していないチャンネルに設定し、次に、本機を同じチャンネルに設定してください。 2台以上のトランスマッターを同時運用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> • 本機とチューナーのチャンネルが違っている。 | 本機とチューナーのチャンネルを合わせてください。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> • 2台以上のトランスマッターが同じチャンネルになっている。 | <p>同一チャンネルで2台以上のトランスマッターは使用できません。 13ページのチャンネル表に従って各マイクのチャンネルを設定し直してください。</p> |

主な仕様

チューナー部

| | |
|------------|---|
| 発振方式 | 水晶制御PLLシンセサイザー |
| 電波型式 | F3E |
| 送信周波数 | 806.125 ~ 809.750MHz |
| 空中線電力 | 10 mW |
| 送信周波数安定度 | ± 0.005% |
| トーン信号周波数 | 32.768 kHz |
| アンテナ形式 | λ/4ワイヤー |
| プリエンファシス | 50μs |
| 周波数偏移 | ± 5kHz (- 60 dBV ¹⁾ 、変調周波数1 kHz、 アッテネーターレベル0 dB時) |
| 周波数特性 | 50 ~ 15,000Hz |
| 信号対雑音比 | 60dB 以上、(A-weighted、WRR-800/801/ 805/810/820/840/850/855/860にて、基 準周波数偏移時) |
| アッテネーターレベル | 0 ~ 21dB、3 dB ステップ可変 |

1) 0 dBV=1 Vrms

電源部・その他

| | |
|------|---|
| 電源電圧 | DC 3V、単3形アルカリ乾電池2本 |
| 電池寿命 | 連続使用 約8時間 SONY 単3形アルカリ乾電池2本、使用 温度25 |

| | |
|--------|--|
| 許容動作温度 | 0 ~ + 50 |
| 許容保存温度 | - 30 ~ + 60 |
| 外形寸法 | 63 × 103 × 17 mm(幅 / 高さ / 奥行き) |
| 質量 | 約145g(電池を含む) |
| 付属品 | ラベリアマイクロホン (1) ウインドスクリーン (1) ホルダークリップ (1) ソフトケース (1) 収納ケース (1) 取扱説明書 (1) チャンネルカラーシール(1式) |

別売りアクセサリー

ラベリアマイクロホン

ECM-44BC、ECM-55BC、EMC-66BC、
ECM-77BC、ECM-166BC、
ECM-310BC、ECM-350BC

マイクロホンケーブル

EC-1.5CF

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際に受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックをこの説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへお買い上げ店、または添付の「業務用製品ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニー業務用製品ご相談窓口ご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お近くのソニー業務用製品ご相談窓口ご相談ください。

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>

この説明書は再生紙を使用しています。

Printed in Japan